

## Twitter にみるオノマトペに後接する接尾辞ミの機能

お茶の水女子大学 大学院生  
宇野 和

Twitter は 2006 年にアメリカでサービスが開始された新しいメディアであり、スマートフォン  
の普及により日本でもユーザー数が急速に増加している。そのような中で近年 Twitter  
上では、本来、一部の形容詞や形容動詞の語幹にしか後接しなかった接尾辞ミが語  
基の範囲を拡張し、濫用とも呼べるほどの発展を見せている。発表者はこのような新しい  
用例を「新しいミ形」と名付け、その意味や機能に関する調査を行ってきた。本発表では、  
新しいミ形の中でもオノマトペを語基として用いられる新しいミ形について、調査・研究  
を行う。

オノマトペを語基としたミ形については、「とろみ」や「ザラみ」などのオノマトペにミ  
がつく例が観察されることが指摘されているように、ごくわずかではあるが本来的な用法  
が確認できる。「とろみ」に関しては『日本国語大辞典第二版』にも掲載されているため、  
オノマトペを語基とするミ形として規範的な用例と言えよう。しかし、Twitter 上で見られ  
る、オノマトペ「ひらひら」の「ひら」を語基としてミ形にした「ひらみ」のような例や、  
雷がゴロゴロ鳴っている様子を表す「雷のゴロゴロみ」などのような例は近年造り出され  
た新しいミ形である。

こうしたオノマトペの新しいミ形を用いることで、事象を端的にわかりやすく表すこと  
ができる上に、ミによって名詞化することで、使用者が事象から感じ取った「～という様  
子・感じ」を 1 語化して表すことが可能になる。たとえば「マントが風になびいて揺れ動  
いている様子」を「マントのひらみ」という短い語句で表現できるのである。この短く表  
現できるという点が Twitter の 140 字以内という字数制限の特性と合致したことで、オノ  
マトペの新しいミ形が多く使用されていると考えられるのである。しかし、オノマトペの  
新しいミ形の使用の要因は単一ではない。たとえば形容詞のミ形では「しんどみ」としか  
表現できない感情について、オノマトペをミ形にすることによって「ヨボヨボみ」「ぐった  
りみ」「くたくたみ」などのように、どう「しんどい」のかを細分化できる。このように、  
オノマトペの新しいミ形には他の表現形式では表し得ない意味や機能があると推察できる。

そこで本発表では、オノマトペの新しいミ形にはどのような種類があるのか、そして、  
Twitter においてどのような機能を有しているのかを明らかにする。